

やまもりキャンプ通信

第4回「とことん！キャンプ」 2011. 9. 23 (金・祝) ~25 (日)

テント村

9月とは言え、清里はもうすっかり秋です。アカマツに巻きついたツタウルシが綺麗な紅葉を見せ、空は高くなってきました。

そんな中、キャンプに集まった子ども達は**38人**！キャンプが初めての低学年の子ども達もいれば、経験豊富な高学年の子ども達もいます。初めて会う子ども達も、すでに友達の子もいます。今回はそんな子ども達が行動班を作って、自炊や作業を行いました。スタッフの考えた行動班が発表されると、意外なことに子ども達からは拍手が。初めての子同士が、一緒に生活しているうちに思わず心が通じ合うようなことも、キャンプの醍醐味ではないかと思えます。班のみんなでゲームをしたあと、さっそく生活の拠点となるテントを建てました。

「みんなでみんなのテントをたてる！」を合言葉に、全員が協力しあって見事テント村ができました。



1日目夜ごはん

今回のキャンプでは、ほとんどの食事が自炊でした。毎食ごとにまずは「**火を起こすこと**」から始まり、自分達で調理しました。材料に触れ、道具を使いこなす。野外での自炊は大きなチャレンジです。今日のメニューは、空き缶ご飯、虹鱒の塩焼き、野菜の串焼きに味噌汁。「**空き缶ご飯**」は1人一本、空き缶を飯ごう代わりにして、自分のご飯を炊くのです。





子ども達は何を感じるのか？はたして炊き上がるのかどうか？ドキドキしながら見守りました。

さあ火を起こそうと思ったら、強い雨が降って来て、かなりの冷え込み。日が落ちると暗くて何も見えない…空き缶ご飯や虹鱒が焦げてしまったり…最初の自炊から子ども達



は自然に挑戦しながらのチャレンジとなりました。

テントに寝る



いよいよ**テント**で寝る時間、昼間子ども達で決めた生活班は、意外なほどすんなり決まり、表札にメンバーの名前を書いてテントにつけました。1年生のゆうきくんは、4年のかずきくんや5年のみずきくんと意気投合したり、他の班も男女・年齢に関係なく生活班ができました。この日の最低気温はなんと3℃！「とにかく厚着で！たくさん着込んで寝てね！」入浴後で、薄着のままテントに向かう子ども達を呼び止めては服装チェック！毛布もシュラフも余分に持ってテントに入りました。そして、忘れてはいけないのが、寂しくて

涙・涙…の子どもたち。夕食の前からひなたちゃんとゆうくんは淋しくなり、1階のライブラリーに戻ってゆっくりしていました。周りの子どもたちが「まだ小さい初めてだからしかたないよね」と声をかけてくれたり、3年生までずっと同じ境遇だったゆうごくんが「俺もそうだったんだよな～」とはずかしそうな、やさしい笑顔で話しかけてくれました。大人という立場でいくら「共感」する言葉をかけてもゆうごくんの実感のこもった言葉にはかなうはずがありません。そして、もうひとつありがたかったのは、同じ班のあいみちゃんとりんちゃん（今泉）が、夜ごはんをもってきてくれました。おなかがすいていた2人は、魚をパクパク、ご飯をおかわり！これで大丈夫かな？と思わせる姿でした。が、ひなたちゃんがおうちに電話してほしいと言い、泣きながらお母さんと話している様子をゆうくんは心配そうに見ていました。ゆうくんとひなたちゃんは、仲間のように感じていたのかもしれない。

その後は、スタッフのゴリ（小西）が淋しくなった子ども達の対応をしてくれ、ゆうくん、ひなたちゃん、ななせちゃん、に盛り上げ役のこうたろうくんが入り大盛り上がりでした。



でも3人は中で寝たいということで、テントサイトも見えるダイニング(食堂)で眠りました。テントで眠れたからいい、眠れなかったからまだまだ、ということではなく、眠れない、怖い、淋しいということもキャンプの中では「その子らしさ」なんだと思います。まわりの子ども達の方が、そのことをよくわかっていたようです。

この時の出来事は、ゴリのブログ：「ゴリの森のようちえん日記」に掲載されています。

2日目朝ごはん

早朝からにぎやかに起きてきた子ども達はとてもハラペコ。でもやっぱり**火起こし**から始めないといけないのです。朝ごはんのメニューは**ホットサンド**。レタスやトマトやハムやチーズをパンに挟んで、火であぶって食べます。「僕は焼かずに食べるんだ」とパンと具を別々に食べる子もいれば、チーズが溶ける程度あぶればいいところを、やっぱり焦がしてしまう子もいて、**焚き火の火かげんの難しさ**を味わいました。それでも「美味しい！」とかぶりつく子ども達。1人2個あれば十分かなと思ったパンも、子ども達の胃袋はまだまだ満足せず、急遽おかわりパン追加！

続いて**昼のお弁当**も作ってしまいます。森あそびに持っているのは、自分の好きな具を入れた**おにぎり**と**味噌玉**(味噌と具を団子にしたもので、お湯で溶かせばすぐに味噌汁になる)です。おにぎりは自分の好きな大きさに握ります。小さいおにぎりを二つの子もいれば、大きな大きなおにぎりを一つ、渾身の作を自慢げに見せてくれる子も。

高学年の女の子達はやっぱり早いもので、自分の分を作り終わると「味噌玉ちゃんと持った？おにぎりいくついる？」とスタッフに声をかけながら手際良くスタッフの分を作ってくれました。



森遊び

テントの森に着いても、まずは火を起こします。この頃になると、早くも子ども達の火起こしの手つきもだいぶなれてきました。

38人の子ども達が森の中で遊ぶ。こんなにたくさん子ども達が同じ森にいと、少し狭いように感じますが、そこがまたわきあいあいとしてとてもいい時間を過ごしました。川遊びの子ども達はびしょ濡れで、寒くなったら火に当たりに来て、また川に遊びに行つての繰り返し。人気はのこぎり丸太切り！はなちゃんといつきくんは息の合ったコンビでどんどん切っています。こうすけくんが細い丸太を切り落とすと、こうたろうくんがもっと大



き丸太にチャレンジします。大人でも苦勞しそうな丸太を、こうたろうくんは休み休み、ついに切り落とすことができ満足そうでした！こうすけくんは「おれもっと大きいのがきりたい」とさらに大きい丸太にチャレンジ。なんと切り落とすことができました。子ども達の集中力は本当にすごい。

いたずらに対する子ども達の息の合い様も素晴らしい。例えばこうへいくんやりょうまくん達は「あかしー、ここにめずらしい植物があるよー」とちゃんとスタッフの興味を引くことでおびき寄せます。あかしは本当にだまされて「どれどれ」と近づくと、斜面の上からバケツの水の滝が！！これにはびっくり。他にもあーちゃんの場合は「怪我したー」とか、あきっちゃんの場合は「めずらしい石」という具合に、性格や興味によって引き寄せる内容が違い、スタッフのことも本当によくわかっています。

ふと見ると、陽だまりでは「クラフト市場」のようになっていました。ののかちゃん、もねちゃん、ひなたちゃん、ななせちゃんはネックレスやブレスレットを、まりちゃん、すみれちゃんは毛糸と木の実を組み合わせ髪飾りを作って、みずきちゃんとみなみちゃんをモデルにファッションショーをしていました。そのセンスには、スタッフも脱帽！



かよちゃん、ななさちゃん、あやかちゃん、ほのかちゃんの仲良し4人組は、森のブランコでとろけるような笑顔です。初めて来た時の不安げな顔を思い出して、スタッフは思わず感動。高学年のちかちゃん、あかりちゃん、あやかちゃん、ななみちゃん、あいみちゃんは、木登りに夢中です。ヤマブドウのつるが巻きついた木に登っては、垂れ下がったつるにつかまってターザンのように宙を舞っていました。

森からの帰り道、じょうくんが砂利道で転んで泣いていたのですが、近くにサルナシの実があったので一つ採ってくる、あまりの美味しさに痛みもどこかにいってしまったよう。手の届かないところにもう一つなっているのを見て、「採ってきてあげる」とするする木に登り採ってきてくれました。う〜ん、あっぱれ！



テントの森って？

キープ森のようちえん（主催：キープ自然学校）で、子どもが安心して遊べる森づくりと森の整備を親御さん達のコースでやっています。雨、雪でも過ごせるように天幕をつけたこともあり、「テントの森」と名付けられました。

2日目夕ごはん

今日の夕食は、「お好みメニュー」。ジャガイモ、ニンジン、キャベツ、ハム、チーズ、パスタ、ソーメン、玉子…数々の食材を選んで、班ごとにメニューを自分達で決めました。行動班での話し合いも2日目となれば慣れたもの。あっという間にメニューが決まり、高学年を中心にさっそく調理開始！「だがし班」はチャーハンに決めました。ゆうごくんが率先

してフライパンを振ってくれました。かのんちゃん、りんちゃん(蒲田)、あずさちゃんを中心とした女の子達が具を切ってくるとゆうごくんが炒める。絶妙なコンビネーションでした。「トトロ班」はトマトたっぷりのヘルシーパスタ！しょうえいくんが火の番をし、あいみちゃん達がフライパンを振りま

す。出来上がったパスタはさすが！いたるくんはじめ、年下の子ども達は何回もおかわりをしていました。「KEEP班」は野菜パスタ。あんまり大量にパスタを茹ですぎて、麺が余ってしまいました。すると、ななこちゃんが手早くサラダパスタを作ってくれました。これが大人気で、他の班の子まで行列を作るほどでした。

「ハイ！チーズ班」はソーメンと野菜炒め。中々絶妙な味加減で、味見してみると、これが美味しい！たくさん作って、気前よくみんなに振舞ってくれました。





みんなの頑張りに、文字通り「火がついた」のは、石釜。あーちゃんからみんなへのプレゼントは「ぐりとぐらのカステラ」。みずきくんやかずきくん・ひなたちゃんが一緒に石釜の火加減を見てくれました。これにはわけがあり、しょうえいくんが、大切に焚き火でやっていたホットドッグをあーちゃんがおいしそう！と言って食べてしまったのです。いくら謝っても気がすまない！あーちゃんがしょうえいくんに何かお詫びがしたいと言うと「ぐりとぐらのカステラ作って！」というリクエストだったので。

石窯のための薪割りには高学年のみずきくん・かずきくんから、低学年のみずきちゃんまでいろんな人がチャレンジしました。薪割りの正しい姿勢、安全な使い方をレクチャー。みんな良く聞いていたけど、やってみると斧は重くて上がらないし、薪には当たらない…何回もチャレンジしてようやくスパッと薪が割れた時は爽快！みずきちゃんも「もう一回やりたい！」というほど気持ちがよかったです。鉄のフライパンにふっくらふくらんだカステラは、とってもおいしかったです。



ドラム缶風呂

子ども達が頑張ったおかげで、スケジュールもすいすい進み、時間ができたので特別に、スタッフから夜のさんぽとドラム缶風呂を提案。寒くたってなんのその、あきちゃんと夜のさんぽに繰り出していく子ども達を見送って、あかしがドラム缶風呂の準備を始めました。残ってドラム缶の手伝いしてくれたゆうごくん。そこへ、りんちゃん（蒲田）が余ったホットケーキの粉を使っておやつを焼いてくれました。こういう「特別」に遭遇した時の子どもの顔は、最高。「あ〜キャンプをやっていてよかったな〜」と思う瞬間です。あっという間にホットケーキの皿は空っぽ！そして、お風呂チームは、寒い夜だけど自分がわかしたお風呂に誰かが入ってくれる喜びを味わったのです。「お風呂に早く入りに来ないかなあ」とみんなを待つ子どもの顔も最高。ドラム缶風呂で大人気だったのが、子ども達の必殺技「ポニョ」。「ポニョってなに？」と近づいたら大変。お湯を口に含んでピュー！と吐き出します。スタッフはびしょ濡れになってしまいました…。こんなに寒い夜なのに、ドラム缶風呂に入りたくて行列を作る子ども達。「寒い」ってことでまたテンションが上がるのが「特別」が生み出す盛り上がり。子ども達の「やりたい」というエネルギーは、厳しい寒さも「楽しさ」に変えてしまうのですね。



3日目朝ごはん



早朝、寒い子ども達のために、まずスタッフが火をおこし、一つの焚き火が燃え上がると、子ども達もテントから出てきて、火のまわりで温まります。こんな風に1日が始まり、各班それぞれがまたご飯のために火を起こしにかかります。

しゅんすけくんは火起こしの時には真っ先にかまどに来ていました。この3日間、うまく火がつかない時も自分で考えながら、何度もチャレンジしてきました。3日目になると慣れたもので本当にうまく焚き火をおこします。今回の火おこしマスターですね。

3日目の朝は、また空き缶ご飯にチャレンジ！1日目に上手くできなかった子も、今度はうまく炊けますように。今回は二回目なので、少々アレンジをして、醤油を垂らしてみたり、炊き込みご飯にしてみたり、子ども達の思い思いのアレンジが光っていました。みずきくんは1人だけご飯が炊けるのが遅いなあとと思ったら、何やら自分で特別アレンジを仕込んでいました。バター醤油にシャケなど具沢山の空き缶ご飯です。「うまくできた！」とスタッフにも食べさせてくれました。うーん、これは絶品！



最終日の出来事

いよいよ最後の後片付けです。テントをたたみ、シュラフを片付け、3日間使った広場を綺麗にします。最終日、みんな疲れているのに、本当によく働きました。3日間自分達の力を使い切ったのでしょ。高学年の子ども達はぼーっとしたり、寝袋がうまく袋に入らない、なんてこともあるくらい。1年生のもえちゃんは、力尽きて、テラスでウトウト・・・「休んできていいよ」と言ってもみんなが片づけているので遠慮して「あーちゃんだったらどうする？」と聞くのです。「あーちゃんだったら1回寝るかな。起きたらまた動けばいいじゃない」というと寝袋にくるまってみんなの足音に負けずやすやすと寝ていました。それを飛び越すように、2年生のそらちゃんとはなちゃんは黙々とテントの片づけをしていました。そんな時に困ったことがおこりました。Zくん(仮名)の電車のICカードがなくなったの



です。そのことで、人のせいにしたり、人を疑ったりするという出来事がありました。周りの子ども達も加わってひと騒動。このままでは帰る時間になってしまう！スタッフは全員を集めて「話し合い」をすることにしました。

あーちゃん：「もう11時なんだけど、まだ片づけが終わっていません。おみやげ作り（バンダナに寄せ書き）もできないの。どうしてだと思う？」

子ども達：「だらだらしてるから」「あそんでるから」

あーちゃん：「そうかな～？ 3日間みんなはよくやったよね。本当にいいキャンプだったと思うよ。だから疲れて動きがゆっくりになってるんだよ」

子ども達：「も～疲れた～」と口々に言う。

あきちゃん：「あと片づけるところを言うと・・・備品を片づける部屋まで持っていくこととひろばに落ちているものを拾うことかな・・・」

あーちゃん：「それと遅れたことの1つに、困ったことがおこっただけど、Zくんの電車に乗る時のカードがなくなって、探してるの。そしてそれを数人で、仲良くなったXくんのせいにしたんだ。Xくんどんな気持ちだったと思う？」

子ども達：「いやだよね～」「いやだと思う」

Xくん：「いやだった！」 勇気をもってそう言えたXくんもすごいです。

あーちゃん：「みんなも物がなくなった時に人のせいにしてしまうことってるの？」

Aちゃん：「ないよ」 数人が首を横にふっていた。そこへ Yくん：「・・・俺、時々ある」このYくんの言葉で、友達のせいにしてしまったZくんがはっとした顔をしました。罪悪感もあっておちこんでいたZくんは、やりきれない気持ちを整理できたのかもしれません。

あーちゃん：「じゃあ、あーちゃんはZくとテントを1つ1つあけてとことんカードを探すから、みんなはあきちゃんの指示通りに片づけられる？」

子ども：「わかった！」

あーちゃん：「それと、残念だけど今回はお土産作りをする時間がないの。それでも、このキャンプの思い出を持って帰りたいから他の方法を考えよう。5分ぐらいでできて、思い出になってみんなのことが思い出せるものないかな・・・？」

いたる：「森の木の実で何か作るとか・・・」 スタッフ：「いい考えだけど時間がないなあ」

りん・あいみ：「写真とかどう？」 スタッフ：「集合写真ね！それ5分でできるね！」

ゆうこ：「そうだ！班の写真も撮ろう」 スタッフ：「それ いいねえ！」

子ども達：「いいねえ」・・・ということになり、今回のおみやげは全員賛成で全体の集合写真と班のメンバーの写真になりました。その後の子ども達の行動の早かったこと！予想外のこと、困ったことがあったときの子ども達の力に驚くばかりでした。



今年の第1回から毎回「やま もり みんなのうた」を作ることになりました。みんなが知っている歌を替え歌にして、子ども達から言葉を拾い、一緒に歌詞を作っていきます。その時感じたことや言葉を、歌としてずっと口ずさむことができるように…という思いから始めました。今回も素敵な歌が出来ました。どうぞ歌ってみて下さい。

プログラム担当：山田証（あかし）

「やま もり みんなのうた」(4ばん)

(新沢としひこ「ともだちになるために」のメロディで)

ニジマスに しおつける ネバネバ ぬるぬるだよ
あきカンごはんつくる わたしの たけたかな
けむたくて めがあかい ひおこしは たのしい
じぶんでかなりうまく つけられるようになりました

すごく さむかったいちにちめ さむさむさむさむ
さむさむさむさむ だけど みた あまのがわ
すごくあつかった じすいちゅう
ひざあつい かおあつい やけどしそうだ

スパゲティは のびのび なまにんじん チャレンジ
おながが すいたから つまみぐい しちゃいました
まきわり ひととはらき つめたおいしいトマトパスタ
やさしいため おいしい ソーメンかたまり モチモチ

チャーハン いきます チャーハンじゃなかった
うまいけど どこか かけてる
だけど ごはん マジさいこう！

ぐりぐらカステラたべていい？
あーちゃんピショピショ ふろはゆっくり
よるはしずかに

食べる・寝る・あそぶ・・・

テント泊と自炊というのは、生活そのもの。自分でやってみてできた経験、誰かがやるのを見る経験、反対に、たりない経験、困った経験から子ども達は考えて、試して、自分のもっているありったけの力を出します。「ここにある材料を好きなように使っていいよ」という言葉に余った食材で「もう1品」を作り出す子どもの姿。ふりかけが入ったみそ汁や名もなき1品ができる楽しさ。そこには「工夫」がありました。テントで寝ることはこわい、淋しい、暗いところがこわい、帰りたい・・・これは誰もが通る道。そこにどう向かい合うかがスタッフが試されることです。正解はありません。今回は子ども同士で声をかけ合い、助け合っていたことが本当に嬉しかったです。子どもも大人も「お互いによく頑張ったよね」なんて言うほど対等な「仲間」だったように思います。こうかんノートが書けなくてごめんなさい。だから今回は実名でエピソードを掲載させていただきました。

生活・保健担当：黒田あや（あーちゃん）

やまもりの宝物 (編集後記)

今回のキャンプは、スタッフにとっても大きな挑戦でした。3日間すべて自炊でテント泊、それだけでもチャレンジですし、メンバーは今年一番の大所帯。そんな中、1年目からやま もりキャンプを支えてくれているリーダー“かとちゃん”の住んでいる早川町の集落が、台風による土砂崩れで孤立してしまい、参加できなくなってしまいました（10月に迂回路ができたそうです）。これはますます子どもたちの力を信じるしかない！話し合いに話し合いを重ねて当日を迎えました。期間中、小学生のころから自然学校のキャンプに参加している学生リーダーの「ちゃき」は、いつでも子どもたちの一番近くにいる、楽しい気持ちや寂しい気持ちにも寄り添ってくれていましたし、キープ中のスタッフが仕事の合間を縫って手伝いにきてくれました。本当にたくさんの人たちの手で、キャンプは支えられています。そして、毎度のことながら子どもたちの持つ底力は本当に素晴らしい！グループ分けはうまくいかな、ちゃんとご飯が作れるのかな、怪我をしないかな…そんなスタッフの心配をよそに、作業のときは子ども同士で話し合っテキパキと動き、遊ぶときはとことん遊ぶ！寂しくて泣いている子がいたら、みんながフォローしてくれる。学年も男女も関係なく発揮されるチームワークに、思わず「すごいなあ…」とため息が出ます。そんなスタッフに子どもたちは、「ぼけっと見てないで手伝ってよ！」…はい、すみません。たのもし言葉になんとか嬉しくなって、頬が緩むのを自覚しつつ、お手伝いさせてもらうスタッフたちでした。

キャンプ全体・プログラム担当：
坂上秋津(あきっちゃん)



「とことん！キャンプ」の仲間たち♪

こども：

スタッフ：あきっちゃん（坂上秋津）、あーちゃん（黒田あや）、あかし（山田証）

キャンプを支えてくれた仲間たち・・・ 感謝をこめて

リーダー：ちゃき（西川千晶）

お手伝い：ゴリ（小西貴士）、やっさん（鳥屋尾健）、かおるちゃん（斉藤薫）、ダニエル（村山敬洋）